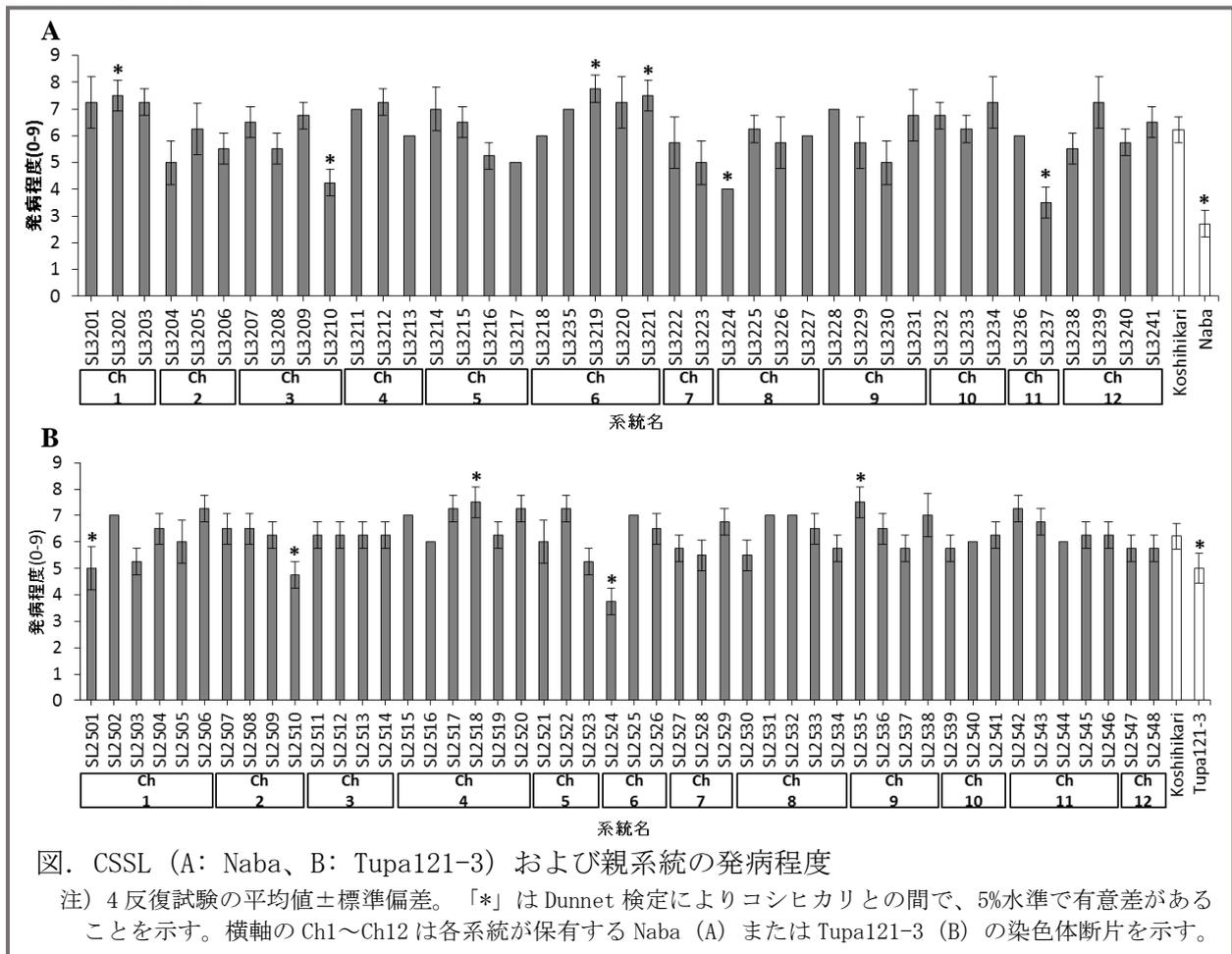


海外イネ品種「Naba」「Tupa121-3」に由来するごま葉枯病抵抗性 QTL の検出

利用対象：水稲育種研究者

- 環境に配慮した栽培に関心が持たれる中、抵抗性品種の利用は有効な手段です。イネごま葉枯病の抵抗性品種育成のため、海外の抵抗性品種「Naba」及び「Tupa121-3」に着目し、罹病性品種「コシヒカリ」を遺伝的背景とした染色体断片置換系統群（CSSL）やそれらの交雑後代（F2）を用いてごま葉枯病圃場抵抗性 QTL（量的形質遺伝子座）を検出しました。
- 「Naba-CSSL」では、第3、第8及び第11染色体の一部が「Naba」の断片に置換された系統で発病程度が低下しました（図A）。「Tupa121-3-CSSL」では、第1、第2及び第6染色体の一部が「Tupa121-3」の断片に置換された系統で発病程度が低下しました（図B）。
- 到穂日数の変化が小さかった「SL3237」及び「SL2524」と「コシヒカリ」のF2を用いたQTL解析から、第11染色体上の「Naba」の対立遺伝子と第6染色体上の「Tupa121-3」の対立遺伝子が抵抗性に作用することを確認しました。
- 本研究で見出した抵抗性 QTL 近傍の DNA マーカーは、ごま葉枯病抵抗性品種の育成や選抜に活用できます。



| | |
|---------|--|
| お問い合わせ先 | 伊賀農業研究室 伊賀農業研究課 太田雄也 電話 0595-37-0211 |
| 参考になる資料 | 太田ら (2019) 育種学研究 21(別 1) 184 https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (三重農研HP) |